

CONTENTS

2 子どもたちに「渡せる社会」は
できているでしょうか
ボランティア 松田小枝さん

3 活動フォトニュース
「第18回ユニセフ・チャリティウォーク」ほか

混迷深める中東情勢、「生きる権利」危うく

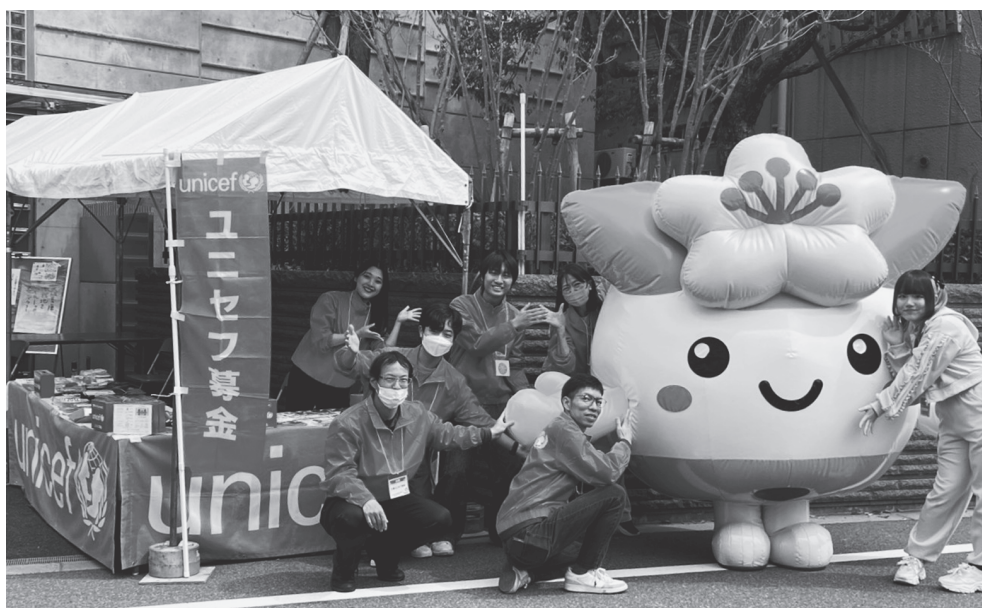
満開になった桜のもと、大阪で2つのビッグイベントが行われました。4月4日には花博記念公園鶴見緑地で「第18回ユニセフ・チャリティウォーク」が、翌5日は天王寺区寺町界隈で「なにわ人形芝居フェスティバル」が開催され、たくさんの参加者で賑わいました。公園は芽吹きを季節を迎え、満開の桜やチューリップなど可憐な花が歩く人の目を楽しませてくれました。一方、人形芝居のお祭りに集まった若い仲間たちからは笑顔の写真が寄せられました。撮影したボランティア曰く「はっちゃけた様子が可笑しくて……」の言葉通り、募金の手応えもあり、楽しんでいる雰囲気が伝わってきます（はっちゃけるは、羽目を外す、はしゃぐの意）。

世界に目を転じれば、ますます混迷を深める中東情勢を受けて3月5日、ユニセフ中東・北アフリカ事務所は、イラン国内の敵対行為で子どもに多くの死傷者が出て

いることを懸念する声明を発表しました。2月28日、イラン南部ミナブにあるシャジャレ・タイエベ女子小学校が攻撃を受け、168人の女の子が命を落としたことによるものです。犠牲になったのはほとんどが7歳から12歳の子どもでした。

パレスチナ・ガザ地区では停戦後、100人以上の子どもが犠牲になったと伝えられています。現地を視察したユニセフのエルダー広報官は、停戦による進展は認めつつ、ガザの子どもたちが2年に及ぶ戦争で受けた「心の傷」の深さを懸念しています。「子どもたちの埋葬が続く停戦では不十分です。子どもたちが亡くなり続けるこの状況は私たちへの警告です。停戦履行の監視、人道支援へのアクセス確保を実現させる責任を求めるものです」遠く離れていても紛争地の子どもたちへ、思いよ届け。

【参考資料】ユニセフ「プレスリリース」2026年1月13日、3月5日発



天王寺界隈のイベント「なにわ人形芝居フェスティバル」に今年も出展。募金や啓発活動を行いました。春らしい清々しい晴天、満開の桜、若さ溢れる学生ボランティアたちに、天王寺区のお花のイメージキャラクター「ももてんちゃん」まで加わって元気いっぱい！多くの募金が集まりました。（2026年4月5日撮影）

自立援助ホーム ミモザの家(奈良市)

ホーム長 ^{まつだ}松田 ^{さえ}小枝 さん

子どもたちに「渡せる社会」は できているでしょうか



松田小枝さん

大学で教育学を学び、子ども服の会社へ。両親が教員だったこともあり、子どもの成長に関心があった。それから15年。2021(令和3)年1月、女子の自立援助ホーム「ミモザの家」に入職、24年秋にホーム長に就任した。親の病気や虐待などで、家庭から保護された子どもたちと暮らす日々。想いを聞いた。(平田篤州)

アパレル業界から子ども福祉へ

未知の仕事への転身だった。

「13年が過ぎたころ、私はだれのために働きたいんだろう、と思い始めました。マーケティングが、海外の富裕層にシフトし始めたからです」

貧困や虐待に苦しむ子どもたちが、身近なところにいる……。西成区の児童館や泉大津市の乳児院、ユニセフにも登録して週末にボランティアを始めた。

自立援助ホームを知ったのは、ユニセフの夏季セミナー。講師は、NPO法人青少年の自立を支える奈良の会の浜田進士理事長。その後、女子ホームを開設することを知り、土、日に宿直のアルバイトを始めた。それが、ミモザの家だった。

少し、説明がいる。

自立援助ホームは、原則15歳から20歳の青少年が自立に向けて暮らす、児童福祉法に基づく福祉施設だ。全国で380ホーム(25年9月時点)ある。働きながら寮費を納めて、生活をめざす。高校や大学、専門学校に通うこともできる。

ミモザの家は定員6人。寮費は月3万円(就学の場合は減額)。全員に個室があり、みんなで食卓を囲んだりする。だから、「ホーム」なのだ。

子どもに寄り添っているか

この6年余でかかわってきた子どもは、約30人。

「1年前後で自力生活に入る子が多いですね。退居後のアフターケアが本番だと思っていますが、連絡が途絶える子もいます」

虐待する父親から16歳で保護されて、ミモザの家に来た子が言った。

「一人で自立できる気がしないから、家族と暮らしたい」

ひどい虐待なので、帰すわけにはいかない。何とか一人暮らしの形を整えて「月に一度は顔を見せてね」と約束して送り出したが、音信不通になった。

「私たちが思う『保護』とか『支援』は、その子の『守られている』になっていなかったのかも。いい意味で、もっと手放してあげた方がよかった……。子どもの『最善の利益』とは何か。それを見極めるのが、一番難しいですね」

今の仕事には正解がない、効率性はありません。でも、松田さんは、それが人間にとって大切だとも感じている。

「環境って大事ななあ」

うれしいケースもある。家庭の事情からしんどくなって朝起きられず、学校に通えなくなっていた子が入ってきた。ミモザの家で生活を整えていき、通学できるようになった。アルバイトも掛け持ちでできて、寮費を自力で納めながら昨春、就職した。今でも、「実家」のように毎月、遊びに来てくれる。

「『環境って大事ななあ』と言ってきて……。ほんとにそう思います」

家庭の中に他人が介入しにくい世の中だ、と松田さんは感じている。「守られていることと、閉ざされていることとは違うと思うのですが……」

最後に、社会について聞いた。

「今、大人が創っている社会や考え方は、いいことも悪いことも、そのまま全部、子どもたちに渡されていく。平和だったり、生きやすさだったり、地球への優しさだったり……。生活を支援する場で、つねに子どもの権利を考えているわけではありませんが、だからこそ、勉強しなければと思います。私たちのスタンスが問われている。そう思います」

未来や子どもたちを思いやる松田さん。ミモザの花言葉の一つにも、「思いやり」が並んでいる。



テーブルにはミモザの花

縁日で垣間見る、人の素晴らしさ —四天王寺で募金活動13年

堀越 善孝さん

永年やっているとはだんだんと知り合いが増え、必ず募金して下さる方もいて、励みになります。今年(2026年)2月の三連休は参拝者が多く、募金は4万円を越えました。昔、ユニセフギフトを並べていたころとは雲泥の差です。当時は結構高額の商品が並んでいたの、買えないし、募金もしづらかったのでしょう。今は缶バッジを募金のお礼に差し上げていますが、半数の人は要らないと言います。募金でユニセフを応援したいという、純粋な思いだけなんです。



大阪協会のなかで、四天王寺のように20年以上続く活動はそうないでしょう。テントの中ではボランティアの方も和気あいあいとしているし、寄って下さる方もここに来るとホッとするといいです。テントはそういう温かい空間なのです。今、ウクライナ、ガザ、イランでひどいことが起こっています。ユニセフの必要性はますます重要になっており、諦めずに続けていきたいです。

(文/近藤敦子)

活動フォトニュース

ユニセフ写真展 自然災害の中を生きる子どもたちとユニセフの支援

4月3日～9日 鶴見緑地咲くやこの花館

地図には2024年から25年に世界で発生した災害が絵文字で並び、その多くはアフリカ、アジアなど後進国に集まっていることが示されています。災害の大規模化には気候変動も一因ですが、不適切な農耕や過剰伐採、人口増加や人道状況などが重なり、複雑化しています。写真展ではユニセフの地道な緊急支援を伝え、経験豊富な活動を頼もしく感じました。



(近藤)

第18回ユニセフ・チャリティウォーク

4月4日 花博記念公園鶴見緑地

9時のスタート前には受付に長い列ができ、今年も大阪シティ信用金庫から職員の方々321名が参加してくださいました。コースでは雨催いの天候について急ぎ足になってしまいましたが、いつもながら「風車の丘」の庭園は見ごたえがあり、今年は青いネモフィラと黄色チューリップとのコントラストが圧巻でした。随所にボランティアが立ち、コースのサポートをしてくれたので安心でした。参加者の総数は414名、参加費500円は全額募金として日本ユニセフ協会へ送られました。



まいましたが、いつもながら「風車の丘」の庭園は見ごたえがあり、今年は青いネモフィラと黄色チューリップとのコントラストが圧巻でした。随所にボランティアが立ち、コースのサポートをしてくれたので安心でした。参加者の総数は414名、参加費500円は全額募金として日本ユニセフ協会へ送られました。

大阪市子どもカーニバル2026

4月19日 大阪城公園太陽の広場

大阪市主催による「子育ておよび子どもたちの交歓・交流の場」として「子どもカーニバル」が開催され、大阪ユニセフ協会は毎年の出展で、会場での知名度も向上しています。テント内にはユニセフの基本パネルや写真を掲示して活動の紹介。いっぽう遊びのコーナーでは缶バッジやお面作りのほか、魚釣りや「天まで届け」などの遊具を用意し、終日たくさん子どもたちに楽しんでもらいました。子どもたちの微笑ましい姿に私たちも元気をもらい、楽しく活動することができました。



(萬浪)

No.26

Bravo



ハラハドキドキ 「ふれあい喫茶」で出前授業

「ふれあい喫茶」は高齢者の居場所づくりとして、全国のほぼすべての自治体にあります。

今回の訪問先は大阪市淀川区の三国センターでした。いつものカラオケの楽しみを「ユニセフと地球のともだち」というDVD鑑賞に変えてもらい、「後でクイズをします。答えはDVDの中にあります」と言って始めました。DVD操作とクイズは同行者二人にお任せして、私はお客様の反応を見ていました。皆さんはコーヒーを飲むのも忘れたかのように、鑑賞に浸っておられました。

いよいよクイズ本番。2問目のクイズは「世界には、働かなくてはならない子どもは何人くらいいるのでしょうか?」。答え①1億6,000万人、②1,600万人、③16人のうち、③の選択肢に小さな笑いが生まれ、あとは和やかに進行できました。支援物資の説明にも真剣に耳を傾けて下さり、「ミルク飲んだことあるよ」との声も。3名の方から計2,500円の募金を頂戴しました。ちなみにDVDの中にある答えは①です。

(土井鈴子)



活動日誌

2026年2月～4月

2月

- 1日(日) 出前授業/西本願寺内安穩殿:ボースカウト京都第23団
- 5日(木) ボランティア入門講座/大阪ユニセフ協会
- 7日(土) 広報・募金活動/梅田スカイビル タワーウエスト3F、ステラホール「ワン・ワールドフェスティバル」
- 8日(日) 広報・募金活動/「ワン・ワールドフェスティバル」
- 10日(火) 出前授業「世界が100人の村だったら」/八尾市立志紀小学校5年生
- 12日(木) 写真展(2/12～25)/みのお市民活動センター
- 13日(金) 会計監査
- 14日(土) アリス募金/JR 難波駅構内
- 18日(水) 10円コイン募金▽外国コイン募金持参
- 21日(土) 広報活動/四天王寺の縁日にて(～22日)
- 25日(水) ボランティア連絡会▽絵本読み聞かせ/OCAT 保育園
- 26日(木) 発送/ボランティアだより No.245・4月予定表・3月確定表
- 27日(金) 出前授業「国際理解教育『気候変動・異常気象と子どもたちの生活』」/大阪市立高津中学校
- 28日(土) ゴンタ募金/近鉄難波駅東改札口

3月

- 2日(月) 写真展(3/2～15)/ラスタホール

- 3日(火) ボランティア入門講座/大阪ユニセフ協会
- 6日(金) 絵本読み聞かせ/OCAT 保育園
- 7日(土) 出席/兵庫県ユニセフ協会「ボランティアのつどい」
- 13日(金) 絵本読み聞かせ/OCAT 保育園
- 14日(土) アリス募金/JR 難波駅構内
- 17日(火) 出前授業『Global Health「栄養」「水と衛生」「感染症と予防接種」』/大阪YMCA インターナショナルスクール 高校1年生(～18日)▽ユニセフジャンパー入れ替え
- 20日(金) 広報活動/四天王寺の縁日にて(～22日)
- 25日(水) ボランティア連絡会
- 26日(木) 発送/ボランティアだより No.246・5月予定表・4月確定表
- 28日(土) ゴンタ募金/近鉄難波西改札口

4月

- 1日(水) 運営委員会
- 4日(土) 写真展(4/4～9)/咲くやこの花館▽募金・広報活動/「第18回ユニセフ・チャリティウォーク」/鶴見緑地公園
- 5日(日) 募金・広報活動/「なにわ人形芝居フェスティバル」/一心寺
- 9日(木) 外国コイン持参
- 10日(金) 絵本読み聞かせ/OCAT 保育園
- 11日(土) アリス募金/JR 難波駅構内
- 17日(金) 写真展(4/17～5/6)/大阪市立中央図書館▽絵本読み聞かせ/OCAT 保育園
- 19日(日) 募金・広報活動/「大阪市こどもカーニバル」/大阪城公園
- 21日(火) 広報活動/四天王寺の縁日にて(～22日)
- 22日(水) ボランティア連絡会
- 23日(木) 発送/ボランティアだより No.247・5月予定表・6月予定表

募金

2026年1月から3月まで募金を寄せられたのは個人15件、団体25件でした。

参加募集

ユニセフセミナー大阪2026

私たちのものは子どもたちのもの — 子どもの権利をめぐる社会

子どもたちの未来のために一人ひとりが社会に目を向け、「子どもの権利」をめぐる現実を見つめることが大切です。子どもの権利について一緒に考えてみませんか。

【基調講演】

桜井 智恵子 先生 (学校法人自由学園最高学部教員)

「こどもまんなか」ってなんだろう — 子どもの権利を考える

2026年7月11日(土) 13:00～15:30

大阪市中央公会堂大会議室

定員80名、参加無料

申し込みは電話、FAX、メール、QRコードからご連絡ください。

◎桜井先生のご講演のあと、参加者とのフリートークを予定しています。

申込QRコードはコチラ▶▶▶



大阪ユニセフ協会

大阪通信

2026年5月15日発行
Vol.26 No.102(年4回)

制作・発行：大阪ユニセフ協会

〒556-0017 大阪市浪速区湊町1-4-1 OCAT2F
火～土(祝日は除く) 午前11時～午後4時
毎週月曜、日曜、祝日は休みます

印刷：株式会社 遊文舎

大阪ユニセフ協会
ホームページはこちら →



編集後記

大阪難波で月一に行う街頭募金活動は親しみを込めて「アリス募金」と呼ばれ、定着しています。先を急ぐ人が溢れる駅コンコースで、募金活動は世界の子どもへの思いを共有するとき。春からは「ゴンタ募金」も仲間入りです。▽今号で松田さんから子どもにとって最善の利益とは何か、見極めの難しさをお聞きしました。夏のセミナーでも考えたいと思います。(近藤)

お問い合わせ・お申し込み

TEL:06-6645-5123

FAX:06-6645-5124

URL: <https://www.unicef-osaka.jp>

Email: un@unicef-osaka.jp